

2014年9月15日掲載

唾石症とは 唾液の管 石で詰まる

舌の下部がはれて痛くなり、口の中が乾いて食事中や食後にのどが痛むようになってきたという患者さんがいらっしゃいました。

口の中を診てみると、確かに舌の下が腫（は）れていました。

下の顎にある唾液の出る管に石が詰まって炎症を起こし、唾液の出が悪くなったものだと分かりました。

顎下腺（がくかせん）という唾液の出る管に、石ができて詰まってしまう「唾石症」という疾患で、食事の時に大量の唾液が分泌されるものの、管が詰まっているために腫れてしまい痛みを生ずるのです。

このように人間の体の中では、石が形成されることがあります。

例えば、歯の表面に付着する歯周疾患の原因ともなる歯石、胆のうにできる胆石、腎臓の尿路にできる尿路結石などです。

唾石症の原因は不明ですが、唾液の排出管に入り込んだ異物や細菌などを核として、そのまわりに唾液に含まれるカルシウムが沈着してできるものと考えられています。結石のできはじめは当然小さいのですが、自然に排出されないと次第に大きくなっていきます。多くの場合は、結石を摘出するための手術をするケースが多いようです。

似たような症状がある場合には、歯科あるいは耳鼻科のお医者さんに診てもらってください。